市内で行われたイベントや行事、まちの話題を写真と一緒に紹介します。
また、みよし市ホームページでは「Topics（まちの話題）」と「市政番組『みよしTODAY』動画配信」でイベントや行事の様子を紹介しています。URL http://www.city.aichi-miyoshi.lg.jp/

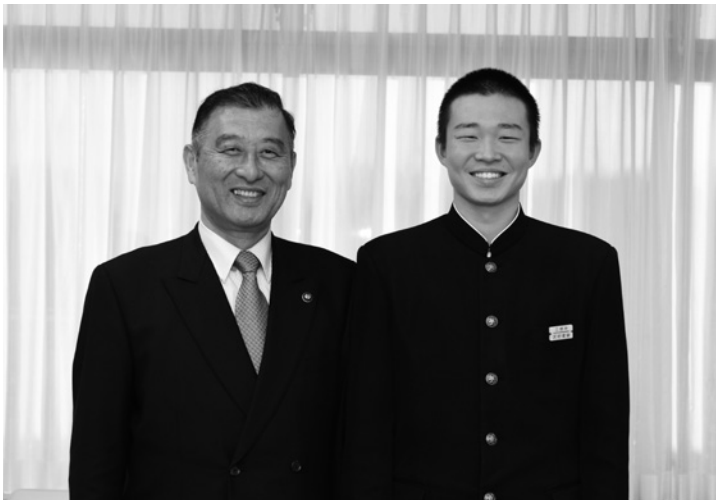
いらっしゃいませ!

お店屋さんごっこ（城山保育園）

ごっこ遊びを通して買い物の楽しさを学んでもらうとともに、売る人と買う人の役割を体験することで買い物をするときの仕組みを学んでもらおうと1月28日、城山保育園でお店屋さんごっこが行われました。全園児が参加し、初めに年長園児たちが売り手になり、お店屋さんごっこがスタート。手作りのアクセサリーや車・ギターなどのおもちゃ、お寿司などたくさんの商品を並べて「いらっしゃいませ」と元気な声でお客さんを呼び込んでいました。その後、園児が2・3人のグループを作ってショッピングモール城山でのお買い物を楽しみました。お気に入りの商品を見つけると、この日のために作った財布から手作りの100円玉を取り出して商品を購入していました。他にもゲーム屋さんや映画館、先生たちが運営するピクニックレストランもあり、園児たちはレストランの特別な自動販売機でジュースを買った後、チケットと引き換えに配られたカップケーキをおいしそうに頬ばっていました。女の子の一人は「いっぱいお買い物できて楽しかったよ」と笑顔で話していました。

全国大会の経験を経て

第29回全国都道府県対抗中学バレーボール大会 出場選手報告会



昨年の12月25日から28日まで大阪市で行われた、第29回全国都道府県対抗中学バレーボール大会。この大会に愛知県代表チームの一員として出場した、三好中学校3年の沢村俊栄（さわむらしゅんえい）くんが1月15日、市役所を訪れ小野田賢治（おのだけんじ）市長に出場報告をしました。26日に行われた予選では、長野県と福岡県のチームと対戦。粘り強く相手チームに食らいつきましたが惜しくも予選敗退となってしまいました。沢村くんは「全国制覇を目指してみんなでたくさん練習をしてきましたが、その思いが届かずとても悔しいです。高校生になったら今までの何倍も努力をし、チームの中心となって全国優勝できる選手になれるように頑張ります」と力強く今後の決意を述べ、小野田市長は「理想を高く持ち失敗を恐れず、チャレンジ精神を持って積極的に挑戦してください」とエールを送りました。

みよしの安全を守る

苅生防犯パトロール隊 日本財団助成『青パト車』贈呈・出発式

日本財団から苅生防犯パトロール隊に青色回転灯装備車（通称：青パト）が贈呈されることになり1月17日、贈呈式と出発式が苅生公民館で行われました。初めに苅生防犯パトロール隊の近藤忍（こんどうしのぶ）隊長が「青パト車は白色と黒色のパトカー色ですので、これまで以上に苅生区民、また他の人たちへも大きな影響力があると思います。私たちも、より一層パトロールに力を入れていきましょう」と力強く話しました。その後、小野田市長が「日ごろの皆さんの活動のおかげで、安心・安全に生活ができる地域になっています。これからも、明るい地域づくり、まちづくりがさらに進むように一緒になって活動していきましょう」と防犯パトロール隊への感謝とより一層の防犯への協力を呼び掛けました。式が終わると早速、日本財団から贈られた青パト車と共に苅生防犯パトロール隊は地域のパトロールへ出発しました。

サンライブに新たな図書が

工業経済会創立50周年記念 寄贈図書目録贈呈式

みよし市工業経済会が創立50周年を迎え、その記念事業の一環として今年7月2日にオープンする、図書館学習交流プラザ「サンライブ」へ図書の寄贈をすることとなり、1月26日、市役所で寄贈図書目録贈呈式が行われました。今回寄贈される図書の数は157冊で、その分野は化学や工学、物理学、土木、建築などの分野で、簡易なものから専門的な技術書までさまざま。内容は現場で役立つ基礎的な書籍や化学関係の辞典、古特許図鑑など、工業系の技術者から一般の人まで幅広く利用できるものばかり。村上雅則（むらかみまさのり）会長は「企業で働く人をはじめ、多くの人に調べものや資格試験の参考などに使っていただきたいですね」と話していました。

一緒に楽しく

親子ふれあい遊び

親子で手軽にできる遊びを紹介するとともに、子どもと触れ合いながら楽しくコミュニケーションをとってもらおうと1月22日、ふれあい交流館で親子ふれあい遊びが行われました。参加したのは、未就園児とその保護者23組。今回はリトミック講師の山岸麻理子（やまぎしまりこ）さんを迎え、音楽に合わせた触れ合い遊びや風呂敷を使った遊びなどを教わりながら実践。他にも、冬にちなんで紙を破いて雪に見立て風呂敷を使って雪を降らせて遊んだ後、その雪をビニール袋の中に入れてオリジナルの雪だるまを作りました。会場には、子どもたちの笑い声や楽しそうに触れ合う保護者の姿がありました。参加した女の子の一人は「雪だるまを作るのが楽しかったよ」、保護者の一人は「どの遊びも体をいっぱい使って遊ぶことができるのでいいですね。家でもやってみようと思います」と笑顔で話していました。

日ごろの活動に

認知症サポーター養成状況優良自治体（市部門）感謝状の受賞

認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを推進することを目的に、認知症の正しい理解の普及啓発事業として「認知症サポーターキャラバン事業」が全国で行われています。今年度から、全国の市町村を対象としてキャラバン・メイト（専門の研修を受講し、認知症に対する正しい知識と具体的な対応方法などを伝え、認知症サポーターを養成する人）と認知症サポーター（認知症について正しい知識を持ち、認知症の人や家族を応援する人）を足した数で高齢者数を割った数で比較し、市、町、村、23区の4部門で優良自治体を表彰するという制度が新設されました。キャラバン・メイトと認知症サポーターを足した数が高齢者数を上回っているのは全国の市ではみよし市だけとなり、市の部門において最も優良であることから感謝状を受賞することになりました。この表彰式が1月30日、東京都の砂防会館別館シェーンバッハ・サボーで行われました。表彰を受けた高齢福祉課の深谷真由美（ふかやまゆみ）課長は「特に若い世代に向けてPR活動を行ってきました。引き続き、活動に力を入れていきたいと思います」と話していました。なお、感謝状は市役所庁舎1階情報プラザ横に展示しています。

大切な文化財を守る

文化財防火デーに伴う消防訓練

尾三消防本部みよし消防署による文化財防火訓練が1月24日、莇生神社で行われました。1月26日の「文化財防火デー」に合わせ、市内の神社などで毎年行われるこの訓練。莇生神社の社務所から出火し、東の風にあおられ平和神社に延焼の恐れがあるという想定で実施された訓練に、みよし消防署員、莇生・福谷の各消防団員、神社関係者、地域住民などおよそ35人が参加。初期消火訓練や重要物搬出訓練、消防本部と地元消防団が協力して莇生神社と平和神社への放水訓練が行われると訓練参加者は、本番さながらの緊迫感が漂う中、真剣な表情で訓練に臨んでいました。訓練を終えた後、尾三消防本部の石川敦司（いしかわあつし）署長は「1年で火災の発生が最も多い時期になりました。家庭での火の取り扱いには十分注意をお願いします」と市民に防火を呼び掛けました。